増補
頭書
訓蒙圖彙大成
三

頭書増補訓蒙圖彙巻之四

人物

此部には士農工商その外異朝乃國俗すべて一さいの人類をあつむるなり

○公は三公なり太政大臣 左大臣右大臣を三公といふ内大臣とのふ公なり唐名は大師 大傅大保といふ補圖ある處は束帯也圖なり束帯には帯綬なり是公卿ども皆式禮乃服なりくつも靴をもちゆるなり

公（きみ）

○卿ハ公卿なり大納言中納言三位以上を公卿と云又月卿ともいふ天子に付そひ奉る故の名也【補】三位以下を殿上人といふ圖とするものハ衣冠のさまなり是常の服なり裾なく下かさね貫なし束帯ハさしこなり裝束の色ハ四位以上ハ黒五位ハ赤六位ハ青色なり

○士（し）補 士はさふらひ也 学文して位にあるを学士といふ又文官ともいふ 刀剣を帯し甲冑を着するを 補 武士といふ これを武官と称ず 四民といふは士農人工商人なり すべては万民といふなり

士 さふらひ

○女ハいまだ嫁せざるを女といひよそに嫁ゆくを婦といふ嫁しても父母よりハ女といふ
○婆ハ媼嫗おうなに同とりあげうばゝを穏婆とも早婆ともいへり

女 ぢよ むすめ ひめ

婆 ば うば

○嬰ハ人始てむまるゝ故嬰児といふ胸の前を嬰といふさまを嬰前よりして乳養を故に嬰といふ女を嬰と云男を兒と云
○童ハ男十五以下を童子といふ童ハ獨なり言いふ室家わらべなり髫子總角これ童子の事なり
○翁ハ長老の称也又人の父を称じく翁といふ叟同

翁 おきな

嬰 みどりこ

童 わらべ

○兵は武具の惣名なり今甲冑を帯たる武士を兵といふなり戎同し頭たる者を将といひ従者を士卒といふ又軍士軍兵などいふなり軍勢は士卒の惣名なり

○農ハ厲山氏子ある農と名づく百穀をうゆる事は能をよろづ物を作るものを農人といふ又神農五穀を植る事をおしへ給ふによつて農と名づくるともいへり

農のつくり

○工ハ百工とてもろ〳〵の細工人の惣名なるを工匠ともいふ本工ハ大工なり漆工ハ塗師也

補 其外指物挽物ざいく絹布織物ハ金物ざいくすべて工といふ是を職人ともいふ也

工 たくミ だいく

○商ハひさぐ人
又あきびと也
居ながら賣を
賈といひもち
ゆきて
うるは商といふ
商と書べし
商とかくハ
あやまりなり
補 商賈通用を
ともふわざ
人の事なり
販といふハ
賣事
なり

賈

あきびと

現銀かけねなし

呉服物太物類

商 あきびと

○醫ハ病を治
す俗ハ酒ハ
ろうく薬を製
そろく酉の字
に書と有和哥
いにしへハ和氣
丹氣とて醫家
あり俗人なるを
○トハト筮なり
トハ赴かり来
者の心ハ赴かり
急を物てうら
なりト物とて
又著をとりて
うらなふ

○膳夫（せんぶ）は膳部（かしはで）ともいへり 今いふ料理人（りやうりにん）なり 庖丁（はうちやう）といふ人 能（よく）牛を解（とく）事妙（めう）なり 今その名をつく 刃物（はもの）の名とも 又膳夫（せんぶ）の名 もしく 庖丁人（はうちやうにん）とは いふ なり

膳夫（せんふ）
かしはで

○畫工ハ繪師なり唐にハ名画おほくありてかぞふるにいとまあらず日本にてハ巨勢の金岡古法眼元信又雪舟などいひしの名画あり中古ハ永徳探幽等その外あまたあれどもこれ狩野家と土佐家ハ禁裏の御絵所なり

○祝は祭に賛詞とつかさどる者なりとあり神前にそのつとめある神主なり又神職ともいふあるひは祢宜ともいふ
○巫は女の神子つかふるもの也巫は神とよろこばしむるものなり
補 又ともあるて按ずるに神楽をまふみこなるべし

○僧ハ浮圖乃教にしたがふ者なり沙弥沙門桑門比丘苾芻ともいふなり又僧正僧都上人和尚長老をハ僧官なり國師大師号あり
○尼ハ女僧なりて比丘尼なり佛の四部の弟子なり尼姑ともいふ右宗門によりて僧官異なり

◎鍛ハ磨なり
推錬なり
金冶をる
ふく鉄と
鍛なり
鍛冶といふべし
鍛冶と字
似たる故
にむかしより
あやまり
きたへて
鍛冶といふを
あるなれ
といふ也

鍛
かぢや

○陶家ハ土もて
茶碗鉢皿などを
つくるもの也陶
冶しものハ瓦工ハ瓦
をやくしかり舜
河濱にすへものを
つくりしより始り
されバ陶家ハ舜を
その祖とする也
○冶ハ鋳匠とも
爐匠ともいふ補鍋釜
火鉢其外金ぐ
具を作るもの也
唐の蚩尤といひし
ものつくりそめし
とぞ

陶家
すへものつくり

冶のもの

○鬼は人死して肉骨土に帰し血は水に帰し魂気は天に帰すとぞの陰気せまりて存して依ところなしかるがゆへに鬼となる

○仙は遷なり飛行してこの山よりかしこの山へうつるゆへに仙人と名づく唐にはおほく又和朝にも久米の仙人とて有

○佛ハ西方乃聖人なり如来ともいふ佛ハ人ニ弗とよむ凡人よりわざをばなるを

○薩ハ菩薩なるを菩ハおもく薩ハとくといふとよむおもく衆生をたすくといふ心なり

佛 ぶつ ほとけ

薩 さつ ぼさつ

○樂（がく）ハ八音（はちいん）と
ゐうしく
補 奏（そう）でるなり
樂人（がくにん）といふ
黄帝（くわうてい）のとき
伶倫（れいりん）といふ者あ
樂（がく）をよくす
よつて樂人（がくにん）
を伶人（れいじん）といふ
補 樂（がく）は管絃（くわんげん）
をもつて日本（ひのもと）の
樂（がく）を神楽（かぐら）
といふ かぐら男（を）
かどいふもの
あり

伶人（れいじん）
まひびと

樂官（がくくわん）
がくくわん

俳優(はいゆう) わざおぎ

○俳優(はいゆう)は雑戯(ざつげ)をなすものを云(いふ)今は狂言師(きやうげんし)のまなびなるべし猿楽(さるがく)の類(るい)ざれごとし遊(ちや)びわざなし素盞嗚(すさのを)のみことより始(はじま)るといへり

俳優(はいゆう) わざおぎ

○染匠ハそめや
紺屋茶染屋な
どのことなり
○蚕婦ハ蚕をとり
いとをまゆ
とる女なりむかし
親に孝行なる
女死して
蚕となり
むしとなりて
庭の桑の木に
きたりて繭を
なして親に
やしなひたるよし
いへるなり

蚕婦 こがひ

染匠 そめどの

機女 はたおり

○機女ハはたにより て呉服 綾織して いる二人乃 女あるゆへ とりとよめ
補 くもよりいふ あやまり
しとりや上機ハ 美の織おと をる下機ハ 布木綿 和とるなり

機女 はたとる

○矢人ハ矢作なり
矢ハ唐土にてハ牟夷と
いふ人作て始む又浮
游と云人始ともいへり
和朝ハ神代に始る
○弓人ハ弓削師也
弓ハ庖犧氏より始る
又黄帝 尭舜より
始ともいふ又黄帝の臣
揮と云人始ともいふ
日本にてハ神代に始る
○函人ハ鎧ざいく也
鎧ハ蚩尤始て作る
又黄帝の時玄女
始て作るともいふ
日本ハ神代に始る

函人 よろひざいく

矢人 やはぎ

弓人 ゆげし

○硯ハ黄帝玉を以て始て造りぬ其後硯を墨池と云
○銀匠ハ白かねざいくとて刀のかざり目貫又鍼などのさいく人なり
○玉人ハ玉を琢磨するものなりよつて出るたまを玉と云海より出るを珠と云
○櫛ハ伊弉諾尊の御ときはじまりたりしかより是を揚津の爪櫛といへり

○烏帽子折ハ京都室町三条にあり烏帽子ハ立烏帽子是ハ高位の着し玉ふ物なり風折梨打左折右折小結荒目等あり

○褙匠ハ今いふ表具師の事なり表補とも表褙ともいふ表紙も同じ

烏帽子折

褙匠 ひやうぐし

○傘工ハ雨傘日傘挑灯ともさいく人なり
○皮匠ハ今いふ足袋屋などなり又切付屋とも皮ざいくする人ともいふ
○針磨ハ宗姉小路の名物なり今ハ三条寺町の辺に多くあり又すやといふ者長崎より針をとりよせ賣弘めしより流布

○牙婆ハ今いふ
あひかり衣
奉公ともいふく
うるもひをうるもの
なり

○筆工ハ筆結也
筆ハむかしに
て蒙恬といふ人
作りそめしなり

○薦僧ハ梵論とも
もいふ梵論字漢
字ともいふ又暮
露とも書なり又
ハちとふ諸国を遊
行するなり

○石工ハ石を切て
石垣石燈籠ハ
搗石塔などをする
ものなり石ふく
器ハつくるさいく
人とも　今家葺
葺とりつく者を
いやねふくなりとぞ
○圬者ハ今いふ
左官なり圬人
とも泥工とも泥
匠ともいふ字を
圬ハ杇ふつくりし
竈をのみ土ざいく
するものなり

相撲使

相撲ハ乃見宿祢と蹶速とかよりの二人取はじめなり角抵と云膂力を争ふわざなり

相撲使をかふる也

○扇(あふぎ)ハむかしハ
ふくハ舜(しゆん)と
いふみかど作り
ちんめうなり
日本(にほん)にてハ
神功皇后(じんぐうくわうごう)の
とき蝙蝠(かふもり)の羽(はね)を
とりてつくり
はじめしとあり
京(きやう)にてハ[illegible]
當(ぞう)と賞(しやう)を
○漆匠(うるしさいく)ハうるし
ざいくをするもの
といふ今ハ
ぬし
塗師といふ

○侏儒ハちいさき短
き人をいふ今いふ
一すぼうしなり短
人ともいふ
○駝背ハせむしと
医書にハ亀背
といふ背のまがれる
と橐駝といふ駝る
に似たる故せむしの
人を駝背といふ也
○兎唇ハ鈌唇とも
兎鈌ともいふ兎鈌
ハ赤子のときよりよ
の外科ニて切とぢぬ
ハとぢて成人して
こえぬものなり

○蜑人ハ海中に入て鮑貝昆布わかめかづきとるものなり海人とも書女の業なるを又蜑ともいふ女もあまといへりいづれも海辺のわざかまどへとりふはじ紀なるべきか

蜑人　あま

○釣叟(てうそう)はつりするおきなとはいへど太公望(たいこうばう)厳子陵(げんしりやう)がたぐひ也 補 日本(ひのもと)は神代(かみよ)よりありしよしあり

○樵夫(せうふ)は薪(たきゞ)をとるものなり又は山賤(やまがつ)ともいふ 補 木(き)こり杣人(そまびと)などは此たぐひのものなるべし

釣叟(てうそう)

樵夫(せうふ)

○猟師ハ弓鉄炮をもつて鳥獣をとる

むかし虙羲氏の世ニ天下に獣多く田畠をそこなふ故ニ今猟とおしへ給ふより始りし

補 冬の猟を狩 よりて又海河にて魚をとるを魚猟と云

猟師 かりうど

○瞽者ハ目なき
もの也盲
目盲人とも
いふ論語に見
冕者と瞽者とを
みえぐハと云
又琵琶法師とも
いひてむかしハ
びハを弾じ平家
をかたりし今ハ琴
三絃でまさくを
座頭ともいふ也
撿校勾當四分
などゝて位階
あり

瞽者

○販婦(ゑんふ)はあきなひをする女(ぢよ)といふ買婆(ばいば)ともいふ又都(と)にはすくなし鄙(ゐなか)にあり[illegible]りの也

○乞兒(こつじ)は乞丐人(こつがいにん)なり又乞(こつ)食(じき)ともいふものもらひともいふ又非人(ひにん)ともいふ人非人(にんぴにん)の義なり

○漁父ハすなどりするものなり燧人氏の世に天下に水おほし故に人にをしゆるに漁をもつてす
補 今猟師といふなり

○舟子ハ今いふ船頭なり海と渡を舟にて又篙工とも棹をもつて佃し川舟にも船頭と云

漁父（ぎよほ） すなどり

舟子（ふなこ） かこ

○牧童ハ廣野におほく牛馬に牧する童なり 牧童遥指杏花村と詩ふも作れり 牛飼をさなり必笛を吹ものなり 牧笛と又詩ニ牧童寒笛倚牛吹といへるも春平此姿なり

牧童
うしかひ

○鏡造鏡といふハ神代に天の糠戸といふ神天照大神の御影をうつして始てつくりたまへる也

補 鏡ハ姿善悪をうつすものゝ心の曲直邪正しく改めんがためなるとかや神前に鏡を掛るもこのいはれなるべし

鏡造

○娼婦ハ倡優と
て女の楽を奏する
ものなり娼ハ誤にて
なりて倡と書べし
又倡妓ともいへど
是むかしの事にて
今ハ絶てなし故
て国及び中比白
拍子といふものあり
今いふ遊女舞子
などの類なるべし
傾城又傾国などゝ
いへるハ別名なるを
ならんむかしより
あるまじきなれ国
及びしあり

遊女 うかれめ

娼婦 うかれめ

又髹工ともいふ
蒔絵師と
いふも此類の
ものなり

○渉人ハ渡
守なり
大河小川と
舟にてむか
ふのきしへ人を
をりのをり
大河中は
悪くに舟
つゝしみて
往来の人の
たすけと
なるなり

渉人
わたしもり

○駕輿丁ハ
駕輿かくの
者なり
酒代漉酌
藤二と漉酌
といふを全
てあたる男とも
あり駕るゝ男
も漉酌といふ
○浪人とハ不順ニ
さまよひて流
浪する
人といふ牢人と
書ハあやまり
なるを

駕輿丁
かごかき
ろくしやく

浪人

○傀儡師(くゞつし)は人形(にんぎやう)まはしの事なりでくゞつといふ淡路嶋(あはぢしま)出る所より毎年(まいねん)正月に来りしよし近年(きんねん)絶てこのものなし又田楽法師(でんがくほうし)といふものありしが今(いま)はその名(な)だけを残(のこ)すなり

傀儡師(くゞつし)

てくゞつ

○車借ハ車つかひの事なり鳥羽白川におほし庭訓にも入り今はさが其外所々にある也天子の車つかひを御者とも徒御とも云人もあり○問丸ハ今の問屋の事なり諸国の相場紙毎日問あつむる宿なりよつて問屋と云又道中にて問屋といへる驛與を出す所なり

くるまつかひ

問丸

とひや

車借

○馬借は馬奴また馬口労ともいふ大津坂本の馬借と庭訓にあり今は馬さしとる借といふ又馬口労といふもの別ふありて牛馬の賣買をせしをする者なり

○伯樂は馬の病をりやうぢする人或伯樂といふむかしは京室町よりけるふや室町の伯樂と庭訓に在

ひまくすし

伯樂

馬借

ひまさし

○土器ハ京西山嵯峨又北山畑枝下ハ深草にて出ふるきはくり出せり庭訓にも嵯峨かはらけとあり

○大原の黒木女ハ京北山大原の女黒木をいたゞきて京に出てわさみ事ハむかし平の惟盛の妻阿波の内侍のち平家亡びて嫁

土器師

大原黒木女

おもうに任
て世をうり
のちの賣かひし
よろし嫁まあり
その外八瀬
みつ雲が畑なる
雄の梅が畑など
ほく女木柴
とうるなり
◎屠者とは牛馬の
肉を屠割するの
なり今いふ
穢多なる
又屠児とも
いふなり

屠者
えた

○中國ハ中華とも漢
とも唐ともいふなり此
後ハ明といひしが韃
靼にしたがひ今ハ大
清といへるやうなり
○朝鮮國ハむかしハ三
韓とて三國なり新羅
百濟高麗といひしが
今ハ一國となる日本に
したがふなり
○琉球國ハ中山國と名
づく日本にしたがふ男
ハ羽毛をもつて冠とし
珠玉をかざる女ハ白羅
をもつて帽として雜
毛を衣とする

中國

琉球

朝鮮

○天竺ハ仏出し給処
まさ大国の大熱国
なり国内に聖水あ
まくよく風濤をや
む商人琉璃の壺に
いれて水をもちかへ
○蒙古ハ韃靼の一種
なりむかし日本へ攻来り
神風に吹破られしと
かや是を蒙古国
裏ともいふなり
○粛慎ハ女直とも女
真ともいふ国人足る
くして道をゆく事
鳥のとぶごとくなる
てあしませと名づく

天竺

蒙古

粛慎

○占城(せんせい)はちやんばんといふ安南(あんなん)に近(ちか)き國(くに)なるを大象(たいざう)多(おほ)し又ハ鰐魚(わに)公事(くじ)詔訴(そしよう)の者ありて理非(りひ)分明なきハ鰐(わに)にあたふ科(とが)あるものハ鰐(わに)これを食(くらふ)とぞ

○安南國(あんなんこく)ハ交趾(かうち)とも東京(とんきん)とも云男子(なんし)ハ盗(ぬすみ)をこのむ女(によ)ハ淫(いん)をこのむ女(によ)をめとるに媒(なかだち)なしえらびあひ合國に肉桂(にくけい)なし他國

占城(せんせい)
ちやんばん

にしてもと此國の内桂と上品とをと

○暹羅は國小海濵おほし男子はそけあれよう湯氏さく甘波耶ともいふ此國の深色をみせて日本にあやむろといふなり

補 ○東番はたかさごともまたたいわん國ともいふ安南にちかきゑびすなり

補 むかし國姓爺この國をうちとり住をしなり今唐に從ふ

安南 かうち

暹羅 しやむろ

東番 たかさご

○南蠻ハ阿媽港人あり阿蘭陀も此類なりとそへて南の嶋國となんなんといへ其品類多くありて人物種々にかきり西のゑびすを西戎といふ是もその數多くあるを
○東夷ハ蝦夷人なり人物勇猛にして常ハ山野に出て獣を射とり又ハ海中の魚類をとりて食とする

惣じて中国より東にある島国を東夷といひ西は西嶋国を西戎といひ南にあるを南蛮といひ北にあるを北狄といふ

○呂宋はるそんとて中国にちかき国なりよく器を製し絹をおる

○長脚は足ながき国なりよくはしる事獣のごとし

長脚

あしなが

○長臂國は東海のほとりにあり國人手ながくして地にたる布衣をきる長一丈三尺八寸又臂なきくにもあり無臂國といふ又臂ひとつあるものもあり一臂國といふなり

長臂國

てながじま

○崑崙は西南
の海中の嶋国也
その人物色く
ろき事黒漆のご
とし海底に入て
自由なることまた
よく帆檣にのぼる
こと猿猴のごと
よつて異国の渡
海の舩にかならず
此崑崙をしてさ
ぐりとらす世に色
黒きものを崑崙
坊といふなり

崑崙

くろぼう

○小人國此國東方にあり身の長九すんより一尺五すんともいへり此國に鶴に似たる鳥ありて小人をとりくらふゆへおそれてひとり行ことなくわきまへつれたちゆくとぞ

○長人國ハむかし明州の人難風に船を吹ながされてある島にいたる人の長一丈余ありしと水とかたりしとなり

長人國 せたかきしまとも云

小人國 こびとじまとも云